１０課「バスツアー」

＜行動目標＞

大勢の人と行動するために、状況に応じて簡単な質問をすることができる。また、指示を理解して行動することができる。

＜3 つのスモールトピック＞

ＳＴ１「集合」

集合場所への行き方がわからなくなったとき、友達に電話で聞いて行くことができる。また、出発までの簡単なやり取りをすることができる。

ＳＴ２「いろいろな注意」

公共の場所での注意を聞き取ったり許可を求めたりすることができる。

ＳＴ３「動物園で」

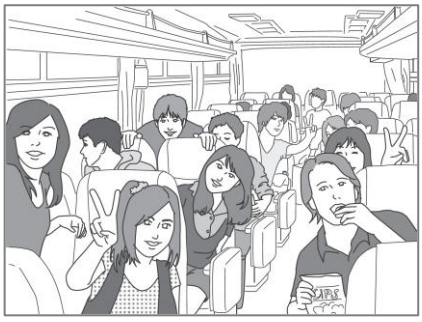
周りの状況に応じて行動を提案することができる。また、施設にどんなサービスがあるか質問することができる。

話してみよう

１０課のテーマは「バスツアー」です。これをご覧になっている先生方のところでも年に１、２回に校外学習などが行われているでしょうか。10 課は友達同士や学校の行事としてバスツアーに参加して、集合から出発、現地、それぞれの場所でどのようなやり取りが行われるかがＳＴ１からＳＴ３まで展開されています。

【話してみよう】では、イラストや写真を見ながら、これから始まる課のテーマに学習者を導いていく役割を持っています。『できる日本語教え方ガイド&イラストデータ CD-ROM』の p. 66 に質問例があるので、その質問を参考にしてみてください。

ここでは、右のイラストを使ったやり取りを見ていきます。



Ｔ　：ここはどこですか。
Ｌ１：バスの中です。
Ｔ　：そうですね。この人たちはこれからどこへ行きますか。
Ｌ２：旅行！
Ｌ３：旅行します。
Ｔ　：ああ、そうですね。皆さんもバスで旅行に行きますか。
Ｌ３：うーん、いいえ。私は新幹線で旅行に行きます。
Ｔ　：へえ。いいですね。Ｌ３さんは今度の休みにどこか旅行に行きますか。
Ｌ３：大阪へ行きます。
Ｌ４：いいね。

Ｔ　：いいですね。大阪で何をしますか。
Ｌ３：お城を見ます。買い物をします。
一同：おおー。
Ｔ　：いいですね。…皆さんは国でバスで旅行に行きましたか。
Ｌ２：はい、行きました。
Ｌ１：いつ？
Ｌ２：高校生。
Ｔ　：Ｌ２さん、学校の旅行はどうでしたか。
（今、学習者の高校や中学時代の学校の旅行の経験などについて話しを聞く）
~~~~~
Ｔ　：皆さん、〇月に校外学習がありますね。このとき、
バスで行きますよ。パクさんたちもバス旅行に行きます。ＣＤを聞きましょう。

１０課の【話してみよう】のイラストをきっかけにして、学習者の話（バス旅行の経験、高校など学校での旅行について、バスの中で何をしたかなど）を聞いてみてください。やり取りの中から学習者自身の話がいろいろ出てきます。【話してみよう】のねらいは、テーマに学習者を引き付けることと、それまでに学んだ日本語を用いて話すことにあります。教師は学習者が話せるように促したり、他の学習者に質問をしてもらったりしてください。

## 聞いてみよう

【話してみよう】が終わったら、【聞いてみよう】に移ります。ＣＤを聞くときには、学習者に聞くことに集中してもらいましょう。１０課の【聞いてみよう】は効果音が入っているので、学習者はこの音を頼りに、今、どこにいるのかがつかめると思います。ＣＤを聞いたあとで、大体の流れ（友達が集合場所がわからない→集合場所を教える→動物園）をつかみ、ST1 に入っていってください。
~~~~~

ＳＴ１　集合

できること：集合場所への行き方がわからなくなったとき、友達に電話で聞いて行くことができる。また、出発までの簡単なやり取りをすることができる。

チャレンジ！

状況イラスト：今日はクラスメイトと旅行に行きます。集合場所で友達を待っています。ダニエルさんがクラスのリーダーとして、全員来ているかどうか確認しています。

1

コマイラスト：リーダーのダニエルさんが点呼をしていますが、まだアンナさんが集合場所に到着していません。パクさんにアンナさんが来たかどうかを聞いています。

どの課も同じなのですが、【チャレンジ！】では、学習者としっかり「状況イラスト」の状況を共有してください。ここでどんな問いかけができるかは、『教え方ガイド&イラストデータ集』(p.67) に出ていますので、ぜひ参考にしてください。旅行へ行く前に集合場所で友達を待っているということが伝わるといいなと思います。

6 課 ST 3 1 で「まだです」が提出されています。「もう~ましたか」という質問に対して、否定の答えは「まだです」だけでしたが、ここでは、動詞を用いていることが 6 課とは異なるポイントです。

学習項目　もうＶましたか（完了）　まだＶていません

「道しるべ」では、状況イラストやコマイラストについて、詳しくどんな状況かを書いていますが、これはあくまでも「**先生方に知っておいていただきたい情報**」です。先生方がこれを読んで、イラストを見たときに「ああ、そういうことなんだ！」と思っていただき、【チャレンジ！】で学習者とどんなやり取りをするかの参考にしていただきたいと思って書いています。

言ってみよう　別冊1

ここでのキューは４つです。口頭練習を行うのに、４つでは少ないかもしれません。クラスに合わせて、既習の語彙を用いて、練習を増やしてください。別冊の練習では、テーマに沿ったキューが用意されています。1のキューは「バスツアー」に関連した内容となっています。別冊の練習の際には、テーマに関連のあるキューのほかに、直接関連のないものでも学習者がよく使うであろうキューを必要に応じてたくさん用意しておくといいです。

中国語圏の学習者が「薬を飲みます」を「薬を食べます」ときどき間違えます。中国語では「薬を飲みます」を「吃藥」（吃は「食べる」の意味）というので、それに引きずられてしまうからなのです。私は「もし、皆さんが『薬を食べます』」といったら、こんな感じに聞こえますよといって、よく口を動かすジェスチャーをして印象づけています。

言ってみよう　本冊1

別冊から本冊の練習に入る際、コマイラストをもう一度見せて、ＡＢのやり取りが集合場所だということを学習者に思い出してもらってください。ＡＢのやり取りが「集合場所」で行われているということがわかると、イメージしやすくなります。また、この AB のやり取りの前に、「今日の旅行、楽しみですね」「そうですね」といった簡単なやり取りを加えるのもいいと思います。

チャレンジ！

2

コマイラスト：アンナさんが来ていないので、心配しているパクさんはダニエルさんに自ら探してくることを申し出ます。

【チャレンジ！】2は１の続きなので、【チャレンジ！】の際には、ぜひ1からしてください。ここでは「探します」が新出語彙です。吹き出しの中にあるパクさんがきょろきょろ

しているイラストを見て、どうしてパクさんがその動作をしているのかを学習者と一緒に考え、どのようなときにその動作を行うかなどのやり取りがあるといいと思います。ここで「探します」を板書しておくと、ＣＤから「探してきます」が聞こえたとき、「~きます」の部分にフォーカスをあてやすくなります。

【チャレンジ！】の際には、パクさんの顔の右横にある吹き出しの矢印（来ます）ということに注目できるようにしてください。

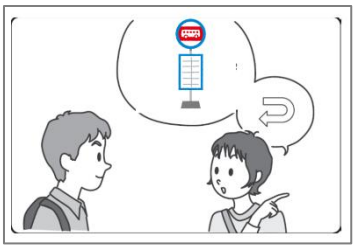
学習項目　Ｖてきます

言ってみよう　別冊2

ここには４つのキューがありますが、他にも既習の語彙で練習が増やせると思います。（例えば、たばこを吸ってきます、写真を撮ってきます、飲み物を買ってきますなど）

こんなふうに

コマイラストのパクさんの吹き出しの中のイラストを変えてみました。

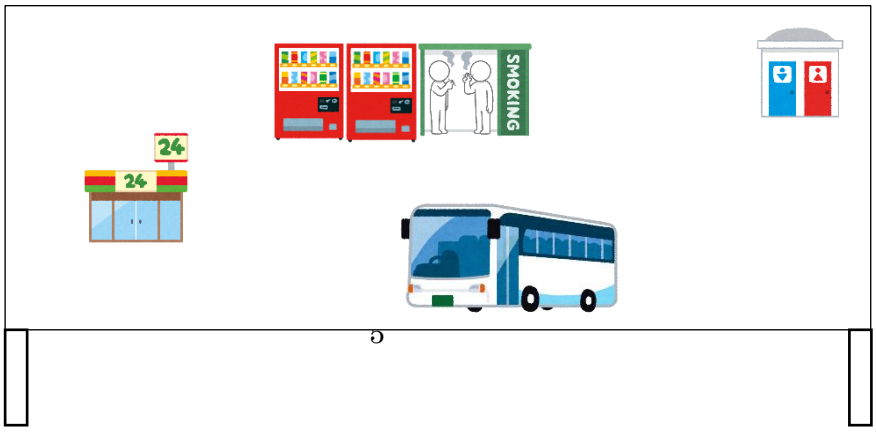


言ってみよう　本冊2

ここではキューが文字で示されていますが、教科書を見なくても、練習が進められると思います。Ｂの答えは「はい」に限らず、「これから説明をしますから、ここにいてください」など「はい」以外の答えでもいいとするともっと自由に会話がつなげられます。

こんなふうに

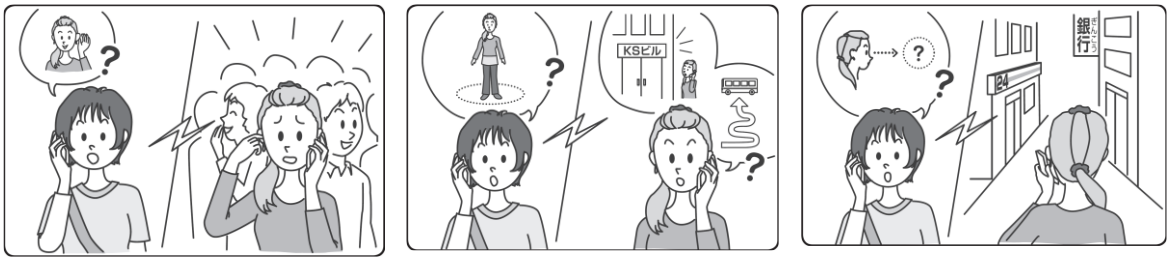
白板全体を集合場所周辺と見立てて、集合場所であるバスの拡大イラストの周りにトイレ、コンビニ、喫煙所、自動販売機などを配置して、そこで「～てきます」という練習をすると実際の集合場所でのやり取りを楽しくすることができます。



チャレンジ！

状況イラスト：アンナさんが集合場所に来ないので、パクさんは心配して、アンナさんに電話をしています。

3



コマイラスト：パクさんはアンナさんが今、いる場所を聞いています。アンナさんは人込みの中にいるので、パクさんの声がよく聞こえません。
パクさんはアンナさんが今、いる場所を尋ねます。アンナさんは自分がどこにいるかよくわからないので、目の前にあるビルの名前を答えています。そこから集合場所までどう言ったらいいか、パクさんに聞きます。パクさんはアンナさんの位置をもっと正確に知るために、そこから何が見えるかを聞いています。

【チャレンジ！】は、ある状況のもとで行われる会話をイラストで表しています。ここでは道に迷った友達を電話で誘導するときに、その友達がどこにいるか知るために周りに何があるか、何が見えるかを聞くという状況です。

学習項目 N が見えます・N が聞こえます

言ってみよう　別冊3

①~④までのキューを代入して終わりではなく、この他にも、今いる教室や学習者の家から何が見えるか、朝・夜にどんな音が聞こえるかなどを話してもらうのも練習になります。

練習の中では、耳を澄ませて、「何が聞こえますか」と問いかけたりしています。隣の教室の先生や鳥の「声」や車の「音」などを実際に聞きながら、「声」と「音」の意味の違いを確認してください。

言ってみよう　本冊3

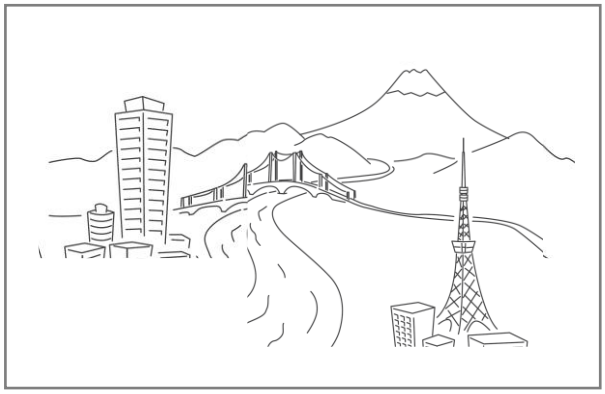
この会話は電話でのやり取りです。練習の際には、A だけがイラストを見て答えるというようにすると、リアル感が増します。例の中にある「よく」は 9 課に既出の「よく」と

は意味が異なるので、注意をしてください。

こんなふうに

簡単な練習ですが、教科書のイラストを下記のようにしてみました。ペア練習のときには、A はB が見ている建物に〇を書くようにしました。

A に渡すイラスト

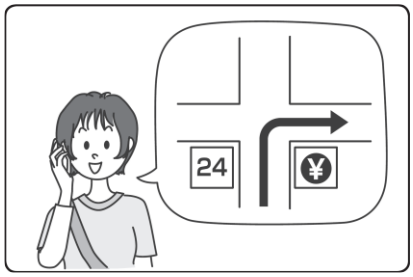


B のイラスト

イーストウエスト日本語学校では、秋にバス旅行があります。新宿駅から少し歩いたところに止まっているバスに集合します。朝の新宿駅は人が多く、来日して間もない留学生にとって新宿駅の改札口からバスまで行くのが大変です。教師たちも要所要所に立っているのですが、ときどき「迷子」になってしまう人も出てしまいます。新宿駅に着いたのは確かなのに、バスまでたどり着かない…。そんなとき、クラスメイトや教師と電話でやり取りするのですが、「そこから何が見えますか」のフレーズが大活躍しています。これ以外にも、実際のバス旅行のときにも、学生たちはこの 10 課で学習したものをきちんと使って日本語で楽しそうにやり取りをしています。習ったことが実際の行動とつながって、日本語を使うのが楽しいという学生たちの様子が見られます。

チャレンジ！

4



コマイラスト：アンナさんがどこにいるかわかったパクさんは、集合場所を教えています。
【チャレンジ！】4は、3の続きなので、3からの【チャレンジ！】をしてください。
パクさんの吹き出しの中で、アンナさんが今、どこにいるかを一緒に確認をしてから、パクさんがどのように話すかを、学習者に【チャレンジ！】をしてもらってください。
ある教室での【チャレンジ！】を見てみましょう。

Ｔ　：アンナさんは今、どこにいますか。
Ｌ１：コンビニの近くにいます。
Ｔ　：そうですね。（４のコマイラストの中に印を書く）ここにアンナさんがいますね。
　　バスはここです。（銀行の先にバスのイラストを描く）
　　じゃ、パクさんはアンナさんに…
Ｌ２：行きます。それから、（曲がるジェスチャーをする）
Ｔ　：あ、曲がります。（「曲がります」板書する）
Ｌ２：行きます。それから、曲がります。
Ｔ　：いいですね。
Ｌ３：先生、（コマイラストの交差点を指して）これは日本語で何ですか。
Ｔ　：ああ、交差点ですね。交差点です。
Ｌ３：交差点。交差点、曲がります？
Ｔ　：そうですね。

学習項目　［場所］を

言ってみよう　別冊4

Ｔ新出語彙が多いですが、練習をしながら、紹介をしていきましょう。
例えば、イラストを見せて、「橋を渡ります」と言いながら、「橋」のときは「橋」を指差し、「渡ります」のときは渡っているところを指差します。それから、学習者に声に出して言ってもらうのと同じタイミングで、「橋」と「渡ります」を板書していきます。このように、新出語彙の導入もしながら、口慣らしの練習もしていきます。１度で終わりにせずに、何度も繰り返し練習すると少しずつ慣れてくると思います。

「練習が単純になってしまって…」という声を聞くことがあります。
別冊の練習をするとき、教師がいつもキューを言って、学習者が答えるというのでは、ちょっと（お互い！？）飽きてしまいますね。キューを出すのは教師という発想をちょっと変えて、学習者に考えてもらったり、学習者同士の練習をしたりするなどもあると思います。

こんなふうに

別冊の練習をこのようなプリントにして、練習をしてみました。

第 10 課ＳＴ1　道案内のことば

例）

橋を渡ります。

①

交差点（　　）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿。

②

信号（　　）右に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿。

③

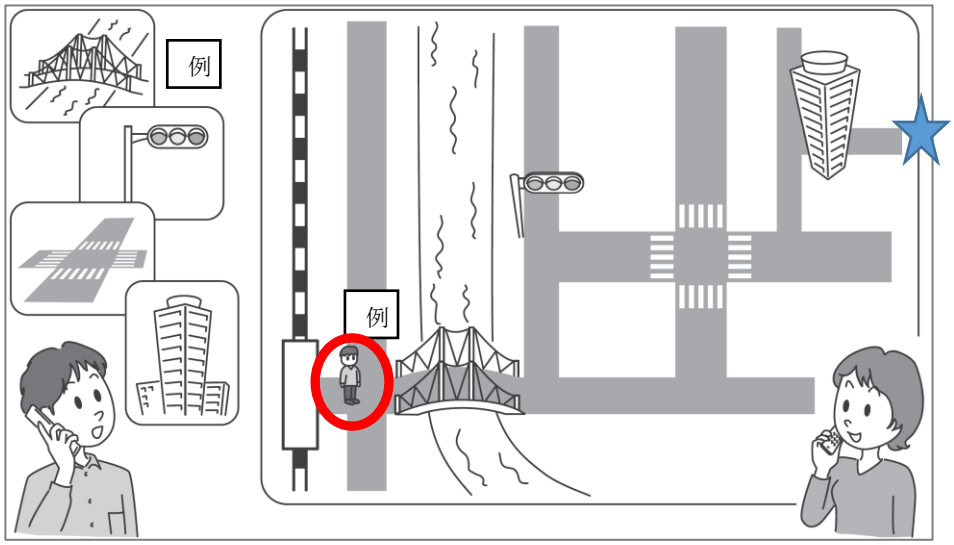
２つ目の角（　　）左（　　）＿＿＿＿＿＿＿＿。

④

道（　　）まっすぐ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿。

言ってみよう　本冊4

道がわからない A が B に電話をかけて、道を聞いています。



練習を始める際に、学習者と一緒にイラストを見て、A と B（B は☆のところにいます）がそれぞれどこにいるかを一緒に確認をしてください。例では、A は駅を出たところで電話をかけています。B に「何が見えますか」と聞かれて、目の前にある橋が目に入ったので、「橋が見えます」と答えています。

全体で練習をするときには、A の部分のイラストを順次示していくと、リアル感が増すと思います。

やってみよう

ここではワンさんが集合場所のバスの場所がわからず、電話で聞いている会話を聞きます。最後のところで、ダニエルさんがワンさんに「ワンさーん。ここ！ここ！」と場所を示している部分は、聞いている学習者にリアルな場面を想像させるようで（ああ、よかった）という表情が見られます。

ＣＤを聞いたあとで、地図を見ながら、バスの位置を一緒に確認するとともに、そのときにどんな表現が使われていたかも一緒に確認をしてください。例えば、

Ｔ：ワンさんはどこにいますか。
Ｌ：駅です。
Ｔ：ダニエルさんに何と言いましたか。（ジェスチャーで示しながら）
Ｌ：バスの場所がわかりません。行き方を教えてください。
Ｔ：そうですね。
Ｌ：ダニエルさんはワンさんに何を聞きましたか。
Ｌ：前に交差点が見えますか。

のように、あとでタスクをするときにヒントになる箇所を、学習者と一緒にもう一度確認

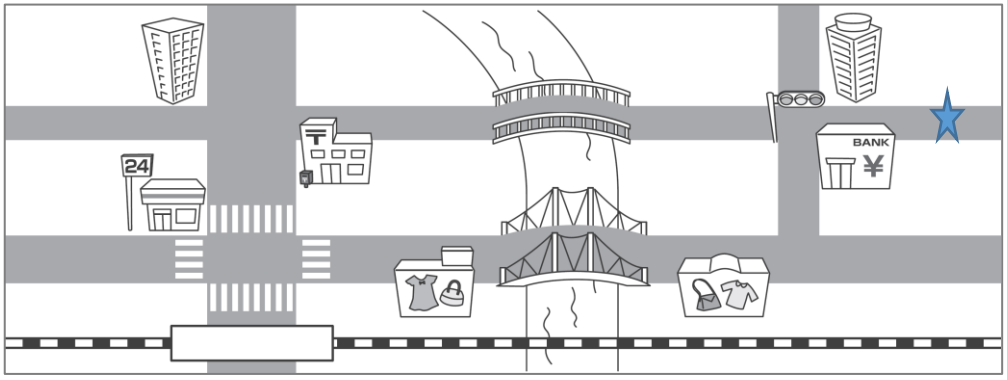
していってください。

■ ロールプレイをします。ここでは、AB2 人のやり取りになっていますが、練習の際には、ＣＤにあるように集合場所での会話も入れて、ABC3 人のロールプレイができると思います（A と C が待ち合わせ場所でのやり取りをした後、B が A に電話をするという流れ）。

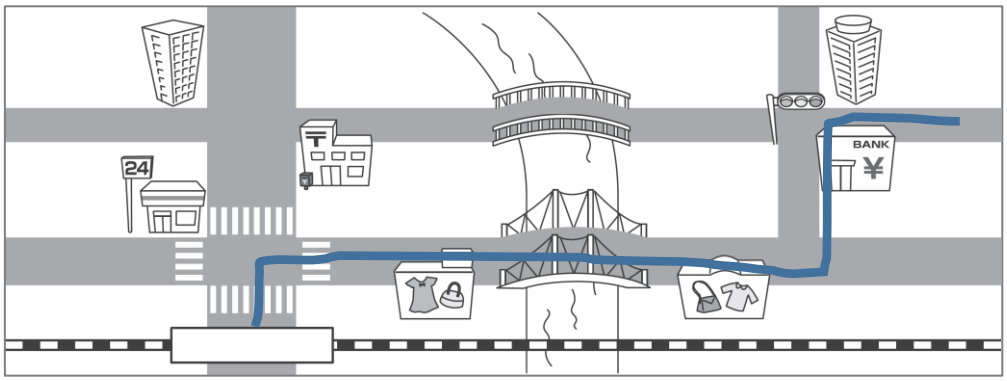
AB のやり取りでは、何も書いていない地図を 2 枚用意し、それぞれに渡します。

A にはバスの場所を書き込むようにいい、B は A の説明を聞きながら、道をたどっていくようにいうといいです。

A　（Aは☆の場所にバスがあると決めました）



B（Aの説明を聞きながら、道を書いていくようにする。タスクが終わったあとで、Aに見せる。）



ＳＴ２　いろいろな注意

できること：公共の場所での注意を聞き取ったり許可を求めたりすることができる。

チャレンジ！

状況イラスト：今回のバスツアーの行き先の一つに美術館が入っています。バスはもうすぐ美術館に着くところです。今、バスの中で、リーダーのダニエルさんが、美術館のチケットを見せながら、クラスメイトに注意を促しているところです。

1

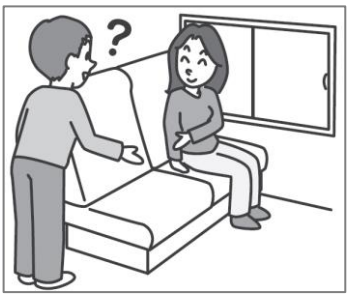
コマイラスト：ワンさんの隣の席が空いています。ナタポンさんは座りたいので、ワンさんに座ってもいいか聞いています。

【チャレンジ！】では、ナタポンさんが座りたいと思っていますが、そこに他の人が座っているかどうかわからないから、隣のワンさんに聞いているという状況を学習者と一緒に確認してください。

学習項目　Ｖてもいいですか

言ってみよう　別冊1

ここでは練習１、練習２があります。練習１では、クラスに合わせて、文での練習の前にテ形の復習をするなどしてください。練習２はイラストを見ながらの練習です。別冊はまずは単文練習をして、しっかり言えるようになったら、相手がどのように反応するかも学習者に考えてもらうのもいいと思います。例えば、例のイラストだったら



Ｔ：(左の人を指して)
Ｌ：隣に座ってもいいですか。
Ｔ：そうですね。じゃ、この人は？
Ｌ：どうぞ！
Ｔ：いいですね。

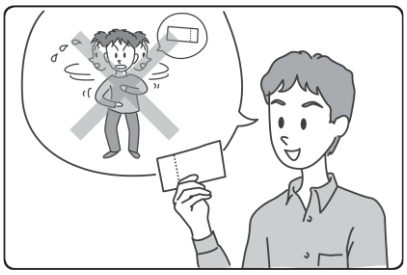
といったやり取りをしながら、練習を進めていくことができます。

言ってみよう　本冊1

ここでは、バスの中で隣の人やバスガイドさんとのやり取りの練習をします。許可を求めた際、相手の答えがいつも OK だとは限りません。受け入れられないときに、どんな日本語を使ったらいいかを示したのが例２の答えです。相手に配慮して理由も言って断っていることにも注目してください。PDF に書かれているのは「解答例」なので、この通りに言わなければならないということはありません。イラストを見て、そのようにも言えるということがあると思います。

チャレンジ！

2-1



コマイラスト：ダニエルさんがクラスメイトに美術館のチケットを配布しています。そして、注意をしています。

【チャレンジ！】の際には、ぜひダニエルさんが今日のバスツアーのリーダーだということを確認してください。バスの中で配布している美術館のチケットをなくしたら、入場の際に困るので、リーダーがクラスメイトに「なくさないでください」と事前に注意を呼びかけています。「なくす」が新出語彙です。チャレンジをしている段階で（CD を聞く前に)、イラストから「なくす」という動詞を紹介し、板書してください。その際、ダニエルさんの吹き出しの中に描かれている人がどんな状況なのかを学習者に聞きながら紹介するといいと思います。

学習項目　Ｖないでください

『できる日本語』の特徴の一つに「タスク先行（まずはチャレンジ！）で進める」があります。【チャレンジ！】が成功する「ポイント」は、CD を聞く前までに、どんな日本語を使って学習者とやり取りをするかにあると思います。

10 課 ST2 2－1 の【チャレンジ！】でのやり取りでも、学習者がいろいろとチャレンジしてくれると思いますが、最後に（CD を聞く前までに）は、「なくしません、お願いします」というところまで引き出して、全体で共有しておくと、「意味はわかっているけど、日本語で何と言ったらいいか」という部分にフォーカスがあたって、CD を聞いたときに、学習項目をつかみやすくなると思います。

このように、CD を聞く前までにどこまでひきつけておくかで、学習者がＣＤを聞く際のモティベーションや集中力、聞いたあとでの理解度も変わってきています。【チャレンジ！】に新出語彙があった場合には、学習者の理解がしやすいように事前に伝えておく必要があります。

言ってみよう　別冊 2-1

ここでは、「ナイ形」が初出です。教科書２８３ページの活用表を見ながら、その変化を確認してください。

１０課くらいになったら、学習者は動詞のグループには慣れていると思いますが、クラスに合わせて、動詞の３つのグループなどを復習するなどしてください。

そのあとで、動詞のグループ別に口頭練習を行います。１グループの動詞の変化は五十音表があると、「ます」の前のい段があ段に変わるというのが目に見えて、わかりやすいです。１グループの「ーいます」は「ーわない」、３グループの「来る」は「来ない」になることに要注意です。右のような練習プリントがあると、音の変化が目に見えて、意識化できると思います。

第10課ST2

ナイ形

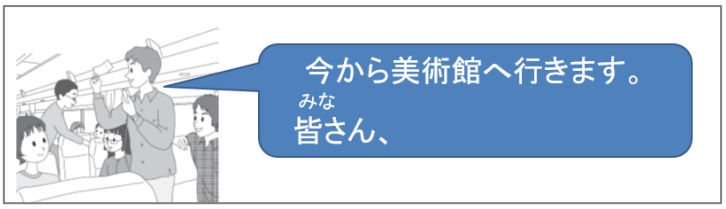
1グループ		2グループ	
行きます		食べます	
書きます		開けます	
泳ぎます		閉めます	
出します		かけます	
押します		見せます	
なくします		遅れます	
立ちます		捨てます	
作ります		寝ます	
撮ります		見ます	
乗ります		起きます	
買ります		降ります	
曲がります		3グループ	
座ります		します	
貸います		運転します	
使います		来ます	
吸います		持って来ます	

言ってみよう　本冊 2-1

ここでは、リーダーの A が注意を呼び掛けています。③と④は「～から」を使って、理由を言ってから、注意をしています。

こんなふうに

授業で ppt を使っているのですが、状況イラストのダニエルさんに吹き出しを付けて、練習のときにはダニエルさんになりきって、①~④のキューを言う練習をしてみました。キューを増やして、注意としてありそうな日本語もイラストを使用して練習してみました。



チャレンジ！

状況イラスト：美術館に着きました。
中を見学したあと、それぞれ自由に行動しています。

2-2

コマイラスト：マルコさんは美術館の見学が終わって、一人でたばこを吸っています。ここではたばこを吸ってはいけないので、ダニエルさんがマルコさんに注意をしています。

【チャレンジ！】では、状況イラストにある禁煙のマークと今、マルコさんが何をしているかに注目してから、コマイラストに入っていきます。

2－１、2－２の学習項目はどちらも「Ｖないでください」ですが、使われる状況が異なるので、分けて提出されています。2－１では、事前に注意を促している際に用いられる「Ｖないでください」で、2－２では「Ｖないでください」が、その場での注意を促す際に用いられています。

学習項目　Ｖないでください

言ってみよう　別冊 2-2

新出語彙や助詞の確認をしながら、練習をすすめてください。「ここで入らないでください」とか「ここで荷物を置かないでくさい」とかなりがちなので、注意が必要です。

言ってみよう　本冊 2-2

イラストの上の段はバスの中での注意、下の段は美術館での注意となっています。

チャレンジ！

3

コマイラスト：パクさんは昼ご飯を食べたあと、ごみを捨てたいと思い、ごみ箱を探しました。ごみを捨てる前に警備員さんに捨てていいかどうか聞きました。しかし、そのゴミ箱はカン・ペットボトル用なので、向こうのゴミ場に捨てるように言われました。

あるクラスでの【チャレンジ！】のやり取りをご紹介します。

T：はい、パクさんと美術館の人は何と言いますか。
L1：あのう、すみません。ここにゴミを捨ててもいいですか。
L2：ここはダメです。あそこに捨ててください。
T：いいですね。（美術館の人の吹き出しを指差して）これは、何ですか。
L3：ごみです。
T：そうですね。今、ごみの話ですね。
T：（パクさんの吹き出しを指差して）もう一回、お願いします。

L２：ここにごみを捨ててもいいですか。

L３：あ、すみません。ごみ、あそこに捨ててください。

（その間、教師はコマイラスト内の言ってほしいところ、注目してほしいところ（上のコマイラストの黄色の□の部分）を指差して）

T：いいですね。じゃ、CD を聞いてください。

パクさんと警備員さんがごみについて話しているということに、学習者の注意を向けてから CD を聞いてください。

学習項目　Nは（取り立て）

言ってみよう　別冊 3

学習者たちは【チャレンジ！】で、「～は」の意味はわかっていますから、それを意識化するために、練習の際に、教師の問いかけの方法を工夫してください。例えば、下記のような練習が考えられます。

T：別冊 p36 の３です。見てください。

T：あのう、ここに荷物を置いてもいいですか。

L：すみません。荷物はあそこに置いてください。

T：ここで電話をしてもいいですか。

L：電話はバスの外で電話をしてください。

のようなやり取りで、練習が進められます。

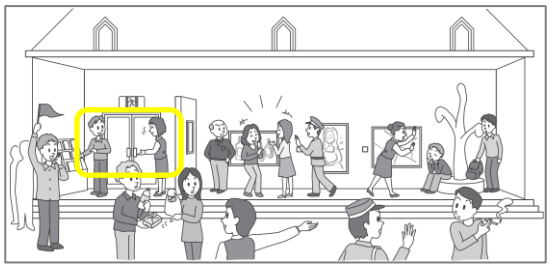
言ってみよう　本冊 3

AB と１ターンの会話ですが、A が最後に、「はい、わかりました」「そうですか。わかりました」とか「喫煙所はどこですか」などように自然に会話を続けられるようになるといいですね。

やってみよう

指示文に「女の人はこれから何をしますか」とあります。会話を聞いて、そのあとで女の人が何をするかの a～g のイラストから選ぶように学習者に言ってください。会話文にはこれまで学習した項目が使われています。ＣＤを聞いたあとで、タスクの答えを確認してから、どんな日本語が使われていたかを学習者に聞いて、タスクで使えそうなところは板書して確認するなどしてください。

■　イラストを見ながら、描かれている人物になりきって話します。「ペアで話しましょう」と言って学習者にイラストを見ながら会話を考えてもらうとなると、例えば、左のイラストの黄色い□の部分を見て、



A：このパンフレットをもらってもいいですか。
B：はい、どうぞ。
だけで終わってしまいがちです。
ここではイラストを静止画としてとらえるのではなく、イラストをきっかけにして、前後の流れがある会話ができるように促してください。
例えば
T：美術館に入りました。
と、教師が学習者をイラストの中に引き込む一言を発して、それから会話を自由に考えてもらいます。
A：楽しみですね。
B：そうですね。どこに何がありますか。
A：わかりませんね。パンフレットはありますか。
B：あ、あそこにありますよ。
A：本当だ。
B：もらうことができますか。
A：美術館の人に聞きましょう。
　あのう、すみません、このパンフレットをもらってもいいですか。
C：はい、どうぞどうぞ。
B：あのう、韓国語のパンフレットもありますか、
C：はい、ありますよ。少々お待ちください。
　はい、どうぞ。
B：ありがとうございます。

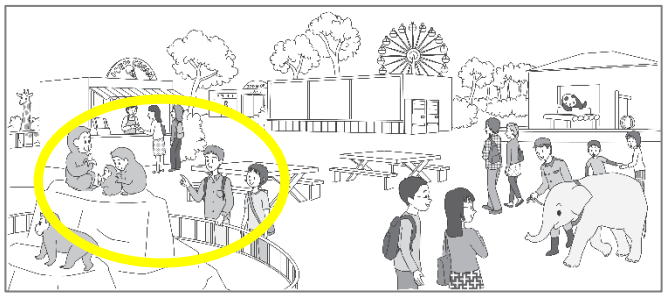
タスクをする際には、イラストに描かれていることだけではなく、その前後にどんなことがあるかを自由に考えるように促してください。また、「私たちは今、美術館にいる」と思ってタスクに取り組むと、一気に勉強がリアルになって楽しくなります。

ＳＴ３　動物園で

できること：周りの状況に応じて行動を提案することができる。また、施設にどんなサービスがあるか質問することができる。

チャレンジ！

状況イラスト：美術館の次に
動物園へ行きました。今、クラスメイトと一緒に園内を
散策しています。



1

コマイラスト：ダニエルさんとパクさんは猿山でサルを見ています。一匹のサルがバナナを食べ始めたのに気がついたダニエルさんが、パクさんに話しています。

ここでは、「あっ」がポイントです。【チャレンジ！】をするとき、ぜひこの「あっ！」に気持ちを込めて、先生方から言ってもらえると、学習者もダニエルさんやパクさんがいる状況に入りやすくなると思います。そうすれば、目の前で起きていることを描写するときに、「あ、○○が～ています」と使ったらいいのだということが理解しやすくなると思います。現在進行形の「Ｖています」は７課ＳＴ３で既出です。

学習項目　～が（Ｖています）

言ってみよう　別冊1

　イラストを見て単文で言う練習です。練習は①~③ですが、他のキューも加えて練習ができると思います。写真の中におもしろさやユニークさがあったら、楽しくて言いたくなります。例えば、サルの他の動作（サルが温泉に入っています、サルが木に登っていま

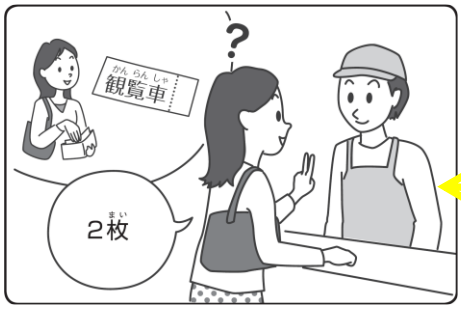
す）とか、動物園で人気がある動物の名前を紹介して、その動物が何をしているか（パンダが笹を食べています、白熊が泳いでいます、ペンギンが歩いています）など、クラスに合わせて練習に使えるのではないかと思います。

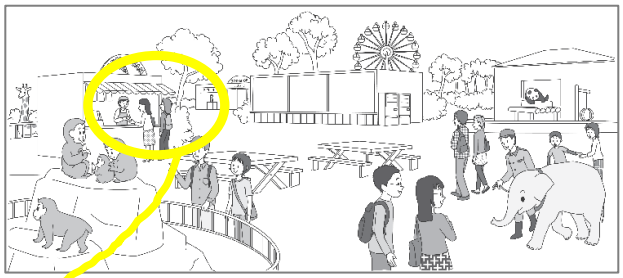
言ってみよう　本冊1

Bのところには ◯ があります。「かわいいですね」や「すごいですね」、「大きいですね」など学習者が自分で考えていろいろ言えるといいと思います。

チャレンジ！

2－1





コマイラスト：ワンさんは観覧車のチケットを買いたいと思っています。売店で、チケットが買えるかどうか聞いています。

状況イラストを見てもらって、遠くに観覧車が見えることと、その乗り物の名前が「観覧車」だということを確認してください。ワンさんと友達の会話を少しだけ学生にしてもらうとぐっと状況に入り込めると思います。「あ、観覧車がありますよ。観覧車に乗りたいです。観覧車に乗りませんか」「いいですね。乗りましょう」など。

「Ｖることができます」は２つの意味があります。能力の意味とある状況下で行えるということを表す意味です。能力の意味の「Ｖることができます」は９課ＳＴ２で提出されています。【チャレンジ！】では、友達と観覧車に乗りたいと思ったワンさんが、売店の店員に買えるかどうかを尋ねるときに「買うことができますか」と聞いています。ある場面状況で必要な項目を学んで行きます。

学習項目　Ｎができます　Ｖることができます（状況）

言ってみよう　別冊2

ここの別冊のキューは、教科書のテーマに合ったものだけです。それ以外にも、いろいろな施設でできることをどんどん学習者に言ってもらえるように練習していってください。

例えば、

Ｔ：公園で何をすることができますか。

Ｌ１：花の写真を取ることができます。

Ｌ２：お弁当を食べることができます。

Ｌ３：散歩することができます。

Ｌ４：サッカーをすることができます。

Ｔ：コンビニで何をすることができますか。

Ｌ１：お弁当を買うことができます。

Ｌ２：コピーができます。

Ｌ３：電話や電気、ガスのお金を払うことができます。

Ｌ４：荷物を送ることができます。

練習が一通り終わったあとに、カードに「図書館」「教室」「病院」「電車」といったところを書き、そこでどんなことができるかを日本語で説明するという練習もできます。

☆　ここは＿＿＿＿＿＿＿です。

びょういん
病院

としょかん
図書館

びじゅつかん
美術館

きょうしつ
教室

でんしゃ
電車

こんなふうに

練習をクイズ形式にしてみました。説明を聞いて、聞いている人たちがどこかを当てます。

例）・勉強することができます。

・ビデオを見ることができます。

・大きい声で話すことができません。

・本を借りることができます。

答えは‥‥図書館です。

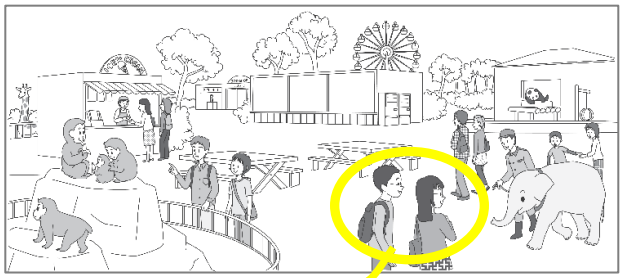
言ってみよう　本冊2-1

Ａの２回目のところに ◯ があります。授業の様子を見ていると、例に「じゃ、２枚く

ださい」とあるので、「ください」を使わなければならないと思っている学習者を見かけます。例に引っ張られることなく、その流れにあった日本語のやり取りを考えるようにしてください。教科書付属の CD に入っている PDF データに「言ってみよう」の答え例もあります。そちらも参考にしてください。

チャレンジ！

2－2



コマイラスト：マリヤムさんはお土産を買いたいとナタポンさんに言いました。ナタポンさんが周りを見渡すと、お土産物屋さんがあることに気がつきました。マリヤムさんに教えてあげます。

【チャレンジ！】２－1、２－2の学習項目はどちらも「Ｖることができます」です。２－1では、ある場所で自分がしたいことができるかどうかを聞いている場面、２－2では、何かがしたいと思っている相手にそれができることを教えている場面となっています。

学習項目　Ｎができます　Ｖることができます（状況）

言ってみよう　本冊2-２

別冊の練習は2だけなので、すぐに本冊2－２の練習に入ります。ここも会話を AB の 1 ターンで終わらせるのではなく、長く続けるように言ってください。例えば、

Ａ：あっ、〇〇さんたちが自転車に乗っています。
Ｂ：いいですね。
Ａ：私も自転車に乗りたいです。
Ｂ：あ、あそこで自転車を借りることができますよ。
Ａ：本当だ。いくらですか。
Ｂ：1 時間 500 円です。
Ａ：いいですね。行きましょう。

のように、3 ターンもある会話にすることができます。先に会話例を見るのではなく、イラストを拡大して、会話を自由に考えてもらうと、自然に長くなっていきます。

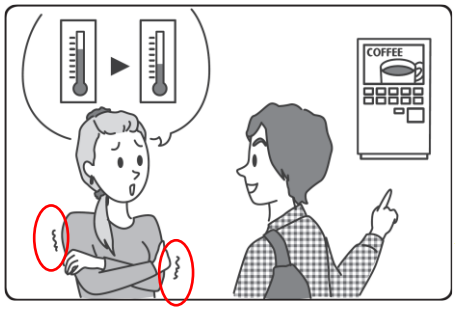
こんなふうに

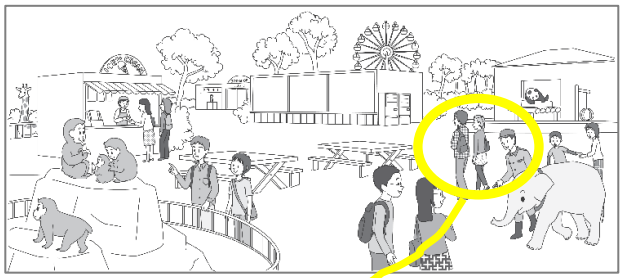
東京に「昭和記念公園」という大きい公園があるのですが、この公園のパンフレットを使って、練習してみました。公園でどんなことをしたいかを考えて、それがこの公園でできるかどうかをパンフレットで見てみました。

［国営昭和記念公園パンフレット URL］
http://www.showakinen-koen.jp/wp-content/uploads/d720bb934f1c71ccafead873659484cb.pdf

チャレンジ！

3





コマイラスト：夕方になって、寒くなったと感じたアンナさん。マルコさんは自動販売機を見て、温かいコーヒーを飲むことを提案します。

コマイラストのアンナさんの横に描かれている線（赤い丸で囲ってある部分）を指して、アンナさんが今、どんな状態かを学習者と一緒に見てください。次に、吹き出しの中に描かれている２つの温度計の温度が変わっていることに注目しましょう。きっと学習者は「寒いです」と言うと思います。そのとき、温度計と温度計の間の「▸」を指差して、「変化している」ことに注目してもらいます。

学習項目　イＡくなります　なＡ・Ｎになります

言ってみよう　別冊3

練習１はイ形容詞、練習２はナ形容詞と名詞の練習です。練習１の②は「天気がよくなり

ました」となるので、「いいです」の変化には注意が必要です。

言ってみよう　本冊3

やってみよう

クラスによっては、ＣＤを聞く前に一緒にイラストを見て、a～ｆの人たちがどんなことをしているのかを確認するのもいいと思います。１番では「はい、チーズ」と写真を撮るときの決まり文句が使われていますが、世界にはいろいろあるようです。ＣＤを聞いたあとで、学習者の言葉では何というのか紹介してもらうのもおもしろいと思います。

■　ＳＴ２と同じく、イラストを見てその中の人物になりきって、日本語での会話を考えます。教科書にもイラストがありますが、授業ではペアで１枚、シートを配布しています。そのほうが、一緒に絵を見ながらどのように言うか考えるという雰囲気も出るので、いいと思います。学習者同士で会話を考え、練習をしています。ある程度時間が過ぎたら、教室全体で、前に大きく拡大したイラストを貼り、それを見ながら、発表をしてもらっています。会話を考える際に、ＳＴ２同様、前後を考えながら会話を考えるように促すと、実際にその場にいるイメージがつかみやすくなって、楽しくなります。

用紙を配布すると、中にはすぐに書こうとする学習者がいるのですが、練習が終わってから、会話をイラストに書き込むようにと言っています。

できる！

この課の【できる！】は、「みんなで旅行の計画を立てて、旅行に行きましょう」です。

でも、それぞれの教育機関のスケジュールで「バスツアー」などが予定されていたら、それに行くことがこの 10 課の【できる！】なると思います。学習者にとっては参加したバスツアーがリアルな【できる！】になります。

ここに【できる！】の実践例をご紹介します。

・ガイドブックやサイトを見て計画を立てる。週末にグループで出かけて、週明けに報告する。
・校外学習の写真を見ながら、キャプションをつける。
・「旅行」（待ち合わせ、移動中、旅行先でシーン）のシナリオを作成して、発表する。その様子をビデオ撮影し、あとでクラスで鑑賞会を行う。
・『たのしい読みもの５５』の「日本で暮らす１６　日帰りバスツアーに行こう」を読み、行きたいところを決めて、実際にクラスメイトを誘い、一緒に行く。その後、旅行中に起こったことをセリフにして、発表する。
・各ＳＴの【やってみよう】をつなげて、イラストを見ながら会話を考える。その会話を覚えて、通しで流れを再現する。

授業でガイドブックやサイトを見る際には、教師が事前に選んで日本語をやさしくしておくといいと思います。

シナリオを書く際に用いるシート例

＿＿＿＿＿＿＿＿旅行

脚本,登場人物：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

シーン１　集合場所で

……：……
……：……
……：……
……：……
……：……
……：……
……：……
……：……

シーン２　＿＿＿＿の中で

……：……
……：……
……：……
……：……
……：……
……：……
……：……

シーン３　＿＿＿＿＿で

……：……
……：……
……：……
……：……
……：……
……：……
……：……
……：……
……：……

シーン４　＿＿＿＿＿で

……：……
……：……
……：……
……：……
……：……
……：……
……：……
……：……
……：……

第 10 課

☆彡　休みの日、クラスで〇〇公園へ行くことになりました。
　　パンフレットを見て、調べてください。

メンバー：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

場所	
行き方	＿＿＿＿＿＿線　＿＿＿＿＿＿駅　駅から歩いて＿＿＿＿分
入園料	
何をすることができますか。	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・
今月のイベントで参加したいことはありますか。	

話読聞書

ペアやグループになって、お互いの「好きなところ」を紹介します。

どの課の「話読聞書」も同じですが、最初に教科書の例を読むのではなく、まずは教室全体で学習者が「好きなところ」を聞いてみましょう。きっといろいろなところを紹介してくれると思います。授業では、教師は学習者が紹介してくれた場所の名前をホワイトボードにメモしておきましょう。

それから、そこについて話をもっと聞きたいとき、どんな日本語を使って質問したらいいかを学習者に聞きます。どんな質問を使ったら、話が聞きだせるかを全体でシェアできたところで、グループになって相手の話を聞く時間にします。

この「好きなところ」の話は、教室全体でシェアすると、お互いの情報交換になると思います。話したあとで、「書く」過程も入れてください。それを回収して添削すると、学習者の日本語の正確性を高めることにつながります。書いた作品は冊子にしたり、クラスの LINE グループがあったらそこの「ノート」に書いたりするなどして、学習者みんなの話をぜひ共有してください。

ときどき、「『話読聞書』は作文ですね」と言われることもあるのですが、うーん、それは違うのです。ここでは、「人と楽しく話すために、自分のことや自分の経験を日本語でどうやって話すかを考え、固まりで話す練習」をします。「最初に話してしまったら、あとで作品を読むとき、新鮮さがなくなりませんか」というご質問をいただいたこともありますが、それは心配不要です。テーマについてクラスメイトと話すことで、学習者にとっては、そのことを思い出したり思考を耕したりすることができるからです。また、どんな日本語を使ったらいいか自分で整理したり、話すことで日本語の練習にもなります。
そのような過程を経て生まれた作品は最初に話した内容より、ずっと充実した内容になっています。また読むということは、話を聞くのとは違った印象を受けることになります。
教科書にある文章は、あくまでも「サンプル」なので、まずは教室にいる学習者の話に耳を傾けましょう！！！